令和６年度　第１回学校運営協議会　報告

１　日　　時　　　令和６年５月２日（木）午前９時 30 分から 11 時 20 分まで

２　会　　場　　　本校　会議室

３　出席者等
（1）学校運営協議会委員
【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）
【委員②】中村町自治会長
【委員③】静岡市大里生涯学習センター長
【委員④】ありんこの里管理者
【委員⑤】本校ＰＴＡ会長
※【委員⑥】小糸製作所人事部企画課
※欠席
（2）校内教職員
校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務課長

４　会議次第
（1）開会
（2）校長挨拶
（3）学校運営協議会委員の任命
（4）自己紹介
（5）校内参観
（6）協議等
（7）閉会

５　協議等内容
（1）校長挨拶
・コミュニティスクールについて（資料を基に説明）
　変化が激しい社会に対応するべく、子ども達にどのような力を身につけさせるか、それは学校内だけではなく、社会全体で子ども達を支えていきたいと考える。つまり、学校・家庭・地域とで連携し子ども達を育てていくということである。通学区域が広い本校では、多くの地域の方々に見守っていただいている。この運営協議会は学校と地域の課題解決に向けた大事な協議の場と考えている。
（2）協議等
ア　令和６年度学校経営計画の「目指す姿」の共有（動画、資料を基に校長から説明）
・学校時代に様々な経験をとおして、子ども達が生きる力を身につけられるようにしたい。少人数だが一人一人に活躍の場があることを強みとして捉え、子ども達の将来につなげていきたい。また、できた・できない、という評価ではなく、目指す子どもの姿に近づいたかどうかを評価したい。
・「目指す姿」を達成するために各担当部署の分掌課ではどのようなことに取り組んだり、力を入れたりするのか、各分掌課長から説明。（録画映像等による）
イ　各学部の経営方針等と地域との連携について（各部主事、地域支援部長）
・幼稚部は「友達と楽しく活動し、たくさんお話する子」を目指す。別紙「令和６年度静岡聴覚特別支援学校が教育活動の中で引き出していく子供の姿」（以下別紙）の[8]、[9]を目指すために、季節の行事を大切にし、体験を通して身につけたり言葉の力をつけ

たりしていく。このために、今年度も地域の方々の御協力をいただきたいと考えている。
・小学部は別紙[1]、[3]を目指す。自分たちで気づいて学部を動かしていく力を育てるために日々の活動から目指す姿をねらっていきたい。学部10人の子ども達がつながり、地域とつながり、学校間交流でつながり、自分の将来（キャリア）につながりたい。また、地域社会との交流を今年度はさらに密にしていきたいと考えている。
・中学部は自分なりの考えや期待感を持ちながら、他者と関わる力も育てたい。コミュニケーション力をつけて多くの経験を積み、社会とつながる人になっていってほしい。
・地域支援部は目指す姿について、通級生自身や保護者、在籍校担任も意識し、その姿に近づいたか、評価を行う。また、児童生徒達が聞こえの状況を自分で理解し、周囲に発信できるように、補聴援助システムについての有効性の周知や、これらのシステムを誰でも活用できるように支援を行う。

ウ　協議（実現のための方策について各委員から）

・協力者である地域住民をどのように巻き込んでいくかが課題である。昨年度は自治会長からのトップダウンが多かったが、今年度は住民間でかなり理解が進んでいると感じるので、各住民が自発的に動いてくれることを目標としている。高齢者との交流、手話歌の学習会など行えたら良い。また、PTA奉仕活動は、事前に打ち合わせの機会を設ければ、中学生がさらに意欲的に動けるのではないかと思う。地域と関係する行事については学校側から事前打ち合わせの提案をしていただけると助かる。
・利用者から交流の希望を募って取り組んでいる。聾学校卒業の利用者が多いため、静聾との交流を強く希望している。昨年度の太鼓交流がとても良かった。今年度もぜひお願いしたい。可能ならば、中学部の生徒に施設の祭りにも参加してもらいたいが、日曜日なので難しいかもしれない。

（校長）オンライン、動画等やり方を工夫し交流していきたい。

・生涯学習センターは大里中と隣接しているので、中学校との交流が盛んである。講座の利用者との交流ができないだろうか。「大里カルタ」の活用も含めて、交流活動が地域を知ってもらう一因となってほしい。
・ＰＴＡ代表として、保護者同士のコミュニケーションをどのようにとるかが課題と考える。以前はタテにもヨコにも、つながりが強かったが、コロナ禍を経てタテのつながりが非常 に薄くなってしまった気がする。保護者間の連携強化を目標にしつつ、子ども達と地域社会との活発な交流も支援していきたい。様々な人、様々な場での交流を願う。

（校長）負担軽減を考え、持続できる方法を考えたい。楽しみながら活動が継続するのが理想であり、そのように進めていきたい。

・今年度教職員が大幅に変わったことで手話が未経験の教員が増え、子どもに背を向けて話をしない等本校の基本的なルールを大事にしてほしいと感じる。子ども同士が手話を使って深い話し合いができるように、手話の活用の力も大事にしたい。
・静岡市では、成人を祝う会を運営しているが、その際に出身高校の教員からのビデオメッセージがその場で流される。近年は中央特別支援学校、静岡北特別支援学校など特別支援学校からのメッセージもあったので、静聾の先生方静岡市の取組に参加できるよう紹介したい。
・保健室前に置かれている折り紙や文字情報、充実した掲示物等、この学校環境を最大限に生かしてほしい。手広くというより今の取組をじっくりやり込むことを大事にできると良い。
・目指す姿の中にあるリフレッシュ方法について、これからの時代とても大切な視点だと感じる。「人薬」というが、普段から児童生徒への言葉掛けを大切にできるとよいのではないか。